

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果（公表）

公表	2020年3月31日	事業所名	ベストライフ株式会社 多機能型児童発達支援事業所ひなた
----	------------	------	-----------------------------

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		利用定員に適切な機能訓練等スペースを確保できている。	基準に沿った広さの確保はできている、運動訓練等の内容によっては、少し狭く感じることがあるが、机上訓練と運動訓練の参加者を分けて支援する等工夫している。
	2	職員の配置数は適切である	○		基準人員に加配体制をとっている	児童の特性・状況や、活動の内容によっては加配体制でも、職員数が足りない場合は応援体制を取っている。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	○		バリアフリー化は整備されている。	手すり、スロープの設置をしている。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	○		職員全員で取り組んでいる。	グループ全体で業務改善に取り組み事業所ごとの研究発表会を行い、各事業所がそれぞれ、目標設定し取り組んできた業務改善の内容を発表し評価する機会を設けている。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		年に1回実施し、意見を集約し検討会を開いている。	
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		ホームページにて公表している	
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○		現在検討中。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		年間の研修計画をたて実施している、社外の研修にも多く参加できる様にしている。	年に1回グループ全体で困難事例等の支援で色々な技法を使い取り組んだ研究を全事業所が発表し評価を行い、各事業所のスキルアップに役立っている。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○		利用開始時にグループ内共通のアセスメント様式にて行い計画を作成している	標準的なアセスメントを行っており、問題点が生じたりすればアセスメントの取り直しを行っていたり、特別支援教育士の資格を持つ専門職員の助言をもらって計画を再作成している。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		グループ共通の標準的な児童に適したアセスメントツールを使用し特性を把握している。	特別支援教育士の資格を持つ専門職員の助言を得ている。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		職員全員でチーム分けし話し合っている。同じような活動の繰り返しにならない様に週単位月単位でチームの責任者を決めて行っている。	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		活動プログラムが同じことの繰り返しにならない様にチームで、内容の検討を行なっている。	ビジョントレーニング、運動訓練、机上訓練、音楽療法、ズンパダグンス、英会話教室等のメニューを適切に組み合わせて計画している。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○		相談員の作成された計画を基に、クラス協議後に作成し、支援を行なっている。	平日、休日等で活動メニューを工夫して支援している。長期休暇には施設外活動（工場見学、ハイキング等）等も取り入れて社会性の向上に取り組んでいる。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○		利用者の状況に応じて、クラス会議や検討会を行ないながら、計画の立案変更をおこなっており、それに伴う個別活動や集団活動を考えている。	
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		毎日のミーティング時の中で話し合いの時間を設け、当日利用の児童への対策・対応と役割分担を確認している	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		時間を決めて話し合いを持っているが、参加できない職員に対しては引継ぎノートによる情報の共有や、一貫した対応が出来る様に対応策までを共有できるように取り組んでいる。	
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○			毎日の日報に正しく記録をとるよう徹底している。週案の中にもその日の児童の様子等記録し目標の達成に向けて支援を工夫している。
18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○		定期モニタリング時期にモニタリングや、ケース会議を開いてクラス単位にて計画の見直しに繋げている。		
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○		ガイドラインに沿って支援している	偏りのない支援とともに、本人の特性を考慮しながらの支援・活動の組み合わせを行なっている。	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
関係機 関や 保護 者 と の 連 携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○			児童発達支援管理責任者、管理者もしくは担当職員が会議に出席しており、利用者の状況は十分に反映できる体制である。専門性の強い場合は、看護師機能訓練士等も参加する。
	21	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている	○		学校の先生と連携をとって確認等行っている。	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	○			体制は出来ている。新しく利用される場合、又入院し退院される場合入院時等の状況確認が必要な場合は速やかに相談員や主治医と連携を取っている。必要に応じ随時主治医に指示書を頂いている。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	○		相談員を中心として、担当者会議時に紹介を得たのちは、個々で常に情報交換を行ない、相互理解を深めている。	
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	○		就学時に必要な対応（バギーやカーシート等への相談支援）を専門職が行っている。本人の特性や、拘り等を共通理解できるように情報交換を行っている。	
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		研修の参加は実施が難しいが、連携を取る為の情報交換時に助言等を頂いている。	
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		○		今後児童館等との交流の機会を検討していく。
	27	（地域自立支援）協議会等へ積極的に参加している	○		地域で行なわれるセミナーへの参加や、担当者会議、関連機関会議に参加し、助言を頂いたりしている。	の
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○			連絡帳や送迎時に保護者からの相談質問を受け、個々の職員が対応するだけでなく、クラス単位で子どもの発達の状況や課題について、理解し対応できるようにしている。
保護 者 へ の 説 明 責 任 等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	○		特別教育支援士、自閉症スペクトラム支援士の資格を持つ専門職の職員が保護者の方の相談を受け支援している。	
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		契約時に重要事項説明書を見ながら詳しく説明。その後記名、捺印を頂いている。また、変更や新たな事項が発生した際も適宜説明をして、個別に説明を実施している。	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		連絡帳や送迎時を中心に情報交換を行ない、保護者との歩調を合わせた対応を、事業所全体で行なっている。	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○		父母の会（保護者会）の開催と、イベント時に交流しやすい環境作りや声掛けを行なっている。	
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○		各職員が自己判断せずにクラス単位や全体会議、ミーティング等で検討し迅速に対応している。	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		通信で月1回行っている。	
	35	個人情報に十分注意している	○		契約時に個人情報取り扱い説明書を見ながら詳しく説明。その後記名、捺印を頂いている。また、変更や新たな事項が発生した際も適宜説明を、個別に実施している。	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		相談を受けた際に個人判断せずにクラス単位や児童発達会議等で迅速に対応している。	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		○	まだ十分といえない。今後開かれた事業運営を図っていく。	グループ全体で祭りを開催、地域住民の方や高齢者の方、障がい者の方と触れ合うことで、児童の社会性を養うことにも役立てている。又”ひばり道の駅”の開催で地域住民の方と交流し、物品の販売等職業体験を行っている。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	○		6ヶ月1度の避難訓練や、火災訓練をマニュアルに沿って行なっている。	保護者にも参加してもらって訓練をするように検討していく。感染症マニュアルに沿って感染症発生時迅速に対応している。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○			6ヶ月に一度、避難訓練「火災・地震」を実施している。その際には職員の教育も含めて取り組んでいる。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		グループ内での研修や地域の研修にも参加している。不適切な支援があれば、気付いた職員が声掛けを行なえるようにしている。	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している		○		当施設での拘束必要者がいない。必要になった場合は十分に協議をし保護者に説明、同意を得たうえで行う。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○		アセスメント時に必ず確認している。診断書や、検査結果がある場合はそれを周知出来る様になっている。	
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		事業所全体で周知する体制を取っており、全職員周知のもと共有出来ている。	

○この「事業所における自己評価結果（公表）」は事業所全体で行った自己評価です。